2023 年 5 月第 8 号

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

ケイヒとは・・・

ケイ：*Cinnamomum cassia*　（クスノキ科：Lauraceae）の樹皮または周皮の一部を除いたもので、一般的に『シナモン』や『ニッキ』として知られている生薬です。

今月のピックアップ

桂皮（けいひ）

中国南部、ベトナムからインド東部に分布、栽培されています。中国南部で生産される**ケイヒ**を『広南ケイヒ』と呼び、ベトナムで生産されるものは『ベトナムケイヒ』と呼ばれ、ラテン名もそれぞれ違います。昭和 40 年代ころまでは日本でも**ケイヒ**が生産され、『和肉桂（和ケイヒ）』と呼ばれ、これが『ニッキ』と呼ばれている**ケイヒ**です。中国やベトナムで採れる**ケイヒ**は、芳香成分が樹皮、枝、葉の各部位に含まれており、葉や果実からは水蒸気蒸留で桂油（コカ・コーラの原料にもなっています）も生成され幅広く利用されています。一方で、和ケイヒは樹皮など地上部ではなく地下の根皮に芳香成分が含まれているため、根皮のみが市場に流通していました。

【性味】 辛甘・温

【薬能】 辛温解表、通陽、静寒止痛、温中補陽

ケイヒの成分とその効果

ケイヒの成分として、精油成分のシンナムアルデヒドとフェニルプロパノイドであるシンナム酸（ケイヒ酸）が知られています。薬理作用は、解熱作用、抗アレルギー作用、抗腫瘍作用、抗胃潰瘍作用、鎮痙鎮静作用などが挙げられます。西洋ハーブの世界でも**生姜**（しょうきょう）や**甘草**（かんぞう）と一緒に胃潰瘍などに利用されます。

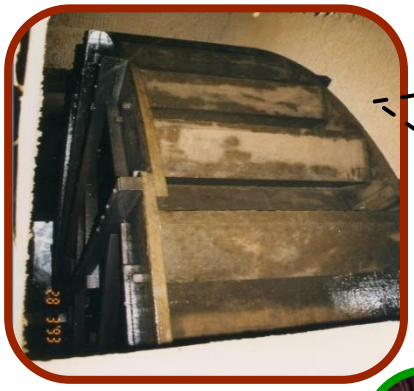
ここで『**桂皮と桂枝**』について説明します。**桂皮**（ケイヒ）は幹皮を利用しますが、**桂枝**（ケイシ）は若枝かその樹皮を利用します。性味や薬効に少し差があるので表にまとめます。日本薬局方に定められている**桂皮**ですが、実は『傷寒論』では**桂枝**が使用されています。分布生産地である国々から輸送される際、**桂枝**は表面積が大きくコンテナの中で蒸され、精油成分の揮発や、カビの発生などのため、日本では実用的ではなかったようです。

	桂皮	桂枝
性味	**甘**＞辛、大温	**辛**＞甘、温
薬効	温める作用	発汗解表する作用

桂枝

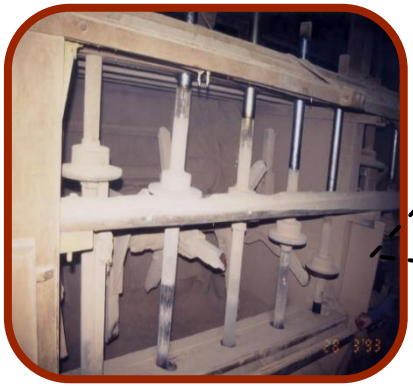
ケイヒからシナモンパウダーに

ケイヒは一般的には**シナモン**として認知されている方が多いと思います。前ページの写真のようなケイヒを 1 cm 四方くらいに刻み煎じ薬に使用するか、もしくは、細かく砕いて 1 μm 以下にしてシナモンパウダーとして使用することもあります。砕く際に注意すべきことは、粉砕する際のモーターなどの『熱』です。前のページでお話しした輸送する際の問題と同様、この熱がケイヒの精油成分を揮発させ、ケイヒの特性の一つである芳香を損なう恐れがあります。そのため、ケイヒを粉砕する際には水車を利用した粉砕機で時間をかけてゆっくり細かく砕く方法が適していたのですが、時代とともに水車は使われなくなりました。



近畿大学病院の近くに水車を使用した製粉所があったんですよ。

水車小屋の内部には先端に金属のついた杵のようなものがあり、ケイヒを粉末状に砕いていきます。



杵の裏の構造です。時間をかけて粉末状にするため、小屋全体に粉末が飛散しています。

ケイヒを含む方剤・・・

葛根湯（かっこんとう）
（感冒、鼻かぜ、肩こり、蕁麻疹）

葛根湯加川芎辛夷（かっこんとうかせんきゅうしんい）
（鼻づまり、蓄膿症、慢性鼻炎）

桂枝加竜骨牡蛎湯（けいしかりゅうこつぼれいとう）
（神経質、不眠症、小児夜泣き）

当帰四逆加呉茱萸生姜湯（とうきしぎゃくかごしゅゆしょうきょうとう）
（しもやけ、頭痛、冷え症）

女神散料（にょしんさんりょう）
（月経不順、血の道症、更年期障害）

人参養栄湯（にんじんようえいとう）
（病後の体力低下、疲労倦怠、寝汗）

東洋医学研究所で使用しているベトナムケイヒ